

兄 × 弟

「兄弟」は古代にあっては「え（兄）／おと（弟）」（「え」とも言う）で、男女の性別に関係なく、年上と年下とをそれぞれ指した。今日、姉妹も含めて広く「兄弟姉妹」を「兄弟」と言うのはそのためである。

年上の兄姉は、「(お) 兄さん」「(お) 姉さん」と呼称にも用いられるが、年下の弟妹を「弟さん」「妹さん」で示すのは、他人の弟妹を指す場合に限られ、直接の呼びかけ語としては使えない。さらに、年上の兄弟には「(お) 兄ちゃん」「(お) 姉ちゃん」の「ちゃん」付けも可能であるが、年下の兄弟を指して述べる場合には「弟ちゃん」「妹ちゃん」の言い方が出来ない。年上と年下とでは、同じ兄弟語彙でも用法面で大きな差異が見られるのである。

また、弟には接頭辞の「お」を付けて「お弟さん」と言うことが出来ない。「お」音が重なるためである。日本語の兄弟語彙は、血を分けた兄弟か義理の関係であるか以外にも、年の上下から「彼は私より二歳兄だ」のような使い方も行われる。これも、年上・年下を表す古代の「え／おと」の発想に由来している。

子供 × お子さん

人間に対する年齢的なとらえ方には、「少年／少女」のような性別によって言い分ける語彙と、「乳児」「幼児」「青年」「お年寄り」「老人」のような性別を区別しない語彙とがある。年齢層に対応した語彙として、乳幼児から老人まで「幼年／少年／青年／壮年／老年」などいくつかの段階が見られるが、全体を大きく二分して「子供／大人」と区別する。子供は未成年ないし十八歳未満に対応し、「大人」と対義関係にある。日本語の「こども」には、別に「親」に対する「こども」の意味もあり、こちらは「親子」の関係から「(わが) 子」「(お宅の) お子さん／子供さん」とも言い、また、複数の「子供たち」等の派生語を生む。

一方、未成年を意味する「子供」には普通「さん」は付けない。「まだ子供だ」「年端も行かない子供たち」などと使う。

